



八千代市郷土歴史研究会  
 会長 村田一男  
 事務局 八千代市勝田台 3-24-10 牧野方

## 八千代市民文化祭 郷土史展

### テーマ「旧高津村のすがたと人々」

とき：11月19日(土)午後1時～5時      20日(日)午前9時～午後4時

ところ：勝田台文化プラザ 2階展示室

ようこそ 郷土史展へ  
旧高津村の総合研究

- 今年の高津村の特色をさらに解明しました
- ・ 縁起で明らかになった高津姫伝説のルーツ
  - ・ 観音寺の旗本間宮氏の重要な文書を発表
  - ・ 歴史に生きた屋号一覧
  - ・ 豊かな村の信仰史誌
  - ・ 石碑に刻まれた数々の人たち
  - ・ 地図で観る高津
  - ・ 現代の開発と団地ができるころ
  - ・ 韓国式鐘楼とは

この2年間、調査・研究でお世話になり、ありがとうございました。  
多彩な内容で盛りだくさんですから、ごゆっくりご覧ください。

八千代市郷土歴史研究会一同

#### 「史談八千代」第30号が発刊!

特集 「旧高津の総合研究」  
30号発刊記念として会員の寸言集も掲載しています

1冊500円(会員には文化祭で配布、又は送付します)

取扱店  
千葉県立中央博物館内ミュージアムショップ  
青嵐書房・藤春書房(八千代台)  
大杉書店(緑ヶ丘) 旬文永堂(大和田新田)

#### お知らせ

#### 12月23日(金)12月例会

#### 大和田新田の歴史散歩と忘年会

集合 高津団地バス停 午後1時  
八千代台西口 12:39 発高津団地行きバス終点

忘年会：午後5時から 大衆割烹あきらにて  
勝田台1-28-20 南口ホテル裏「つぼ八」の近く  
電話：047-482-0791 会費：4000円(要・予約)

#### 初春 2006年1月8日(日)

#### 東海七福神めぐり

集合場所 京急大森海岸駅 改札前 12時半  
京成勝田台駅 10:56 に乗車・青砥・泉岳寺乗換

初春の一日 旧東海道の道筋を辿っての七福神めぐり、境内や道筋にある石碑・史跡も見学する予定です。

#### コース

大森海岸駅・・磐井神社(弁財天)・・鈴が森刑場跡・・天祖神社(福祿寿)・・品川寺(毘沙門天)・・  
= 旧東海道 = ・・荏原神社(恵比寿)・・一心寺(寿老人)・・養願寺(布袋尊)・・品川神社(大黒天)・・  
京急新馬場駅・・解散(15:00 予定)

参加の方は必ず、12月例会までにお申込ください。  
会員以外の方も歓迎：参加費 500円(会員無料)

2～3月のお知らせは 次ページ

## お知らせ

### 2月12日(日) 学習会

- ・市立郷土博物館にて
- ・次年度調査研究課題検討会
- ・「郷土史研通信」53号発行

### 2月26日(日) 博物館活動協力

- ・通信53号でお知らせします

### 3月5日(日) 拡大役員会

- ・市立郷土博物館にて
- ・平成17年度事業打合せ他

### 3月19日(日) 歴史散歩

- ・通信53号でお知らせします

## 報告

### 8月21日(日) 例会

午後1時半から八千代市立郷土博物館にて、24名が参加して、「史談八千代」30号原稿内容の補足と、その他文化祭の発表内容の提案がありました。

- ・前回の調査研究に追加
  - 9.高津の現代の文化財・韓国式鐘楼(牧野)
  - 10.村の構成(石造物・古文書の屋号の照合)
  - 11.石碑銘文から見る高津の変遷(小菅・園田・鈴木)
  - 12.高津山観音寺の戦没者名簿(畠山・小菅・鈴木)
- (1~8は前号記載)

・文化祭展示用作品「八千代市の狛犬たち」の紹介(平塚)

- ・その他情報交換と討論
- 1.延享2年銘の十九夜塔の銘文解説
- 2.境内観音堂縁起について

連絡事項の確認

- ・博物館は選挙のため使用不可となり、9月11日の拡大役員会の場所が急遽、勝田台七丁目公会堂に変更を連絡
- ・12月例会(フィールドワークと忘年会)12/18から12/23に日程変更

### 9月11日(日) 拡大役員会

- ・21名が参加、午後1時から、勝田台七丁目公会堂にて。
- ・「史談八千代」30号原稿内容の検討、編集の段取り、17年度郷土史展のプラン、次年度の調査研究対象地区の選定(大和田新田が候補)などについて、活発な意見の交換をしました。

### 9月18日(日) 例会

- ・17名が参加、午後1時から、市立郷土博物館にて。
- ・「史談八千代」30号原稿の目次作成と題名などの検討、郷土史展展示作品の打合せをしました。
- ・会員からの報告 = 1.高津の吉橋大師講の様子(斉藤) 2.高津の延宝2年と佐倉市の寛文9年の十九夜塔の比較、子安鬼子母神像の紹介(藤)など
- ・10月16日のバス見学会の参加者の確認

### 10月9日(日) 例会

- ・18名が参加、午後1時から、市立郷土博物館にて。
- ・「史談八千代30号」校正・編集作業のほか、急遽掲載することになった高津山観音寺文書8点の解説・整理作業を併行して行いました。
- 2.市民文化祭「郷土史展」へ向けて、準備作業を始めました。

「高津山観音寺文書目録」

- 1.天保12年8月「源土信公御逝去葬式略記帳」
- 2.天保12年11月「先君供養料寄進状」
- 3.天保13年3月「観音境内・田畑等寄進状」
- 4.天保13年3月「御差置反別書上帳」
- 5.文久3年5月「高津山観世音略縁起」
- 6.文久3年5月「[下総国千葉郡高津村観音寺本尊観世音縁起]」
- 7.年不明「[御返答書](間宮土信差出?)」
- 8.年不明「高津山観世音之縁起」(原稿用紙ペン書き)

### 10月30日(日) 校正作業

市博物館で、4名が9時半~14時、「史談八千代」の最終校正をしました。

### 10月16日(日) バス見学会

八千代市文化財保護の会の「市民文化祭 土浦市周辺の史跡、文化財を訪ねる」の行事に、当会から17名が参加し、小田城址(国史跡)、平沢官衙遺跡(国史跡)、土浦まちかど蔵、土浦城址(亀城公園)、阿見町自衛隊内予科練記念館、上高津貝塚ふるさと歴史の広場(国指定史跡)などを見学しました。

詳細は3ページへ。

### 11月13日(日)

#### 郷土史展準備

午前9時から、市立郷土博物館にて郷土史展の展示物の制作作業をしました。

(以上の記録・文責は藤)

### コラム 回文の道標

村田一男

中秋のはじめのこと、作並温泉で会合があった。かねがねあることに興味をもっていたので余裕を持って出た。仙台から西へ仙山線をいくと、「愛子」という駅がある。こけしの愛くるしさを感じるので地名のいわれを知りたくて降りた。

読みは「あやし」といい、子安観音に由来するらしい。あやしとは方言で子をあやすことであつた。何かほっとする地名であり思わず入場記念切符を買った。

もう一つの発見があつた。ひとつ仙台寄りの駅「陸前落合」近く、作並街道の分岐点に「回文道標」があつた。「みな草(くさ)の名は白(はく)知れ薬(くすり)也(なり)すくれし徳(とく)は花(はな)の作並(さくなみ)」作者は仙台庵、本名は細谷勘左衛門(1796~1869)であつた。彼は生涯で千句以上の回文をつくったそうで、山郷の文化が味わえた。

10月16日(日)  
バスツアー見学会の報告  
茨城小田城跡の旅

藤本早苗

10月16日(日)八千代市文化保護の会主催の茨城の探検へ歴研のメンバー15名が参加し、32名で雨の勝田台駅を出発しました。バスの中では、雨のことなど忘れるくらい、村田先生の説明に耳を傾け、筑波山の姿は見えませんが安藤さんの筑波山名物「がまの油売り」口上、あつつと言う間に谷田部東のパーキングで休憩。大きなハナミズキの赤い実が雨がかりにとても美しかった。藤さんがスナップ写真を撮ってくださいました。



白いそばのかわいい花があちらこちらの畑で咲いていました。

9時30分 小田城跡に到着。雨の中つくば市教育委員会生涯学習課の山本先生と広瀬先生の説明を聞きました。ここは、小田氏十五代の居城跡で、鎌倉時代の半ば頃から使われ、以来350年間続いた。また、水面と差のない城であったことがわかり、堀にはセイダカアワダチ草が一面咲いていた。

10時40分過ぎ 平沢官衙遺跡は、千年以上前の奈良・平安時代の筑波郡の役所跡で、復元整備された板倉(切妻、樽板葺)双倉式工舎(寄棟、芽葺)校舎(寄棟、目板打ち厚板流)を外から見学し、大きさに驚きました。昼食は、旧水戸街道の昔の街並みがある、亀城公園横のかねき亭で亀城御膳をいただきました。食後フリータイム。

予科練記念館、雄翔館は、太平洋戦争時は土浦海軍航空隊でした。終戦まで日本海軍少年航空兵養成の中心的施設で、ここを卒業した若い兵士の8割が特

攻隊として戦火の海に散った。その兵士たちの1500点余りの遺品や手紙、遺書等には、見学者の心に重く、また熱いものがこみ上げてきました。

最後の見学場所は、上高津貝塚ふるさと歴史の広場。博物館の案内・見学後、個々に広い芝生の上に復元された竪穴式住居3棟は中まで入ることができ、貝層断面展示もあり、お弁当持参で1日過ごせるような所でした。茨城のお土産に震源地の近い震度4の地震に驚かされました。夕焼けに送られて、茨城のバス見学も無事帰路へ。

高津の吉橋大師巡拝同行記  
斎藤君代

高津では有志で毎年9月に吉橋八十八ヶ所をお参りしており、今年は9月15日・16日の2日間に行われた。参加者は11名(高津、吉橋、大和田新田、麦丸)でマイクロバスを使って88の札所を巡るのに市郷研より佐久間、平塚、斎藤の3名が同行させてもらった。

9月15日早朝7時- 観音寺に集合ということだったが、6時頃より大雨が降り巡拝は中止になるかどうか心配しつつ観音寺に向かった。

雨は次第に小雨になり7時には参加者全員が集まり、10番札所と観音寺本堂前で読経をして巡拝は始まり、そのうちに雨もあがってきた。研究会の者を除いて全員が白装束の遍路スタイルだったのが澄んだ大気と良く合い、さわやかだった。

決められた巡拝はどんなお天気であっても中止する事はないそうである。

お参りの手順は、始めに拝礼し、お賽銭(5円玉)を入れて、1年間のお礼を言い、合掌、拝礼をする。5円玉のお賽銭はお大師様とご縁があるようにということだそう。

マイクロバスを使っての移動のためお参りに要する時間は、駐車出来る場所によって異なり、5分間ぐらいの間に14名がお参

りをしている感じである。

次に簡単に巡拝コースの時間配分をみると

7:00~8:00 高津 新木戸へ3か所の札所を回る

8:00~9:00 薬園台 三山へ6か所

9:00~10:00 大久保 船橋へ10か所

10:00~11:00 東船橋 滝台へ5か所

11:00~11:40 上飯山満(飯山満3丁目) 高野(飯山満2丁目) 下飯山満(飯山満1丁目)へ10か所

11:40~12:10 12番札所上飯山満能満寺で読経して中食となる。

12:10~13:00 東町 米ヶ崎 高根 金杉へ6か所

13:00~14:00 海老ヶ作 三咲へ7か所

14:00~15:00 坪井 桑橋へ10か所

15:00~16:00 金堀 坪井へ11か所

16:00~16:15 高本 寺台 花輪へ3か所。16番花輪来福院で読経をして止め。

9月16日 8:00~8:30 高津観音寺に集合しマイクロバスで20番尾崎(吉橋)貞福寺まで行き、読経をして始まる。

8:30~10:00 桑納 麦丸 村上宝喜作 宮内 中郷 辺田 前 台町へ9か所

10:00~11:30 下町 萱田 町 大和田 萱田へ8か所

11:30 71番高津観音堂で結願。中食のお接待をうけ「わらじぬぎ」をする。

この2日間の同行では60から90歳の方が実年齢よりも軽い身のこなしで巡拝をされるのに驚き、また、車中の会話に夫々の屋号が生きていることに感銘を受けた。

過去から現代に続くものに思い至り、高津の信仰を支えてきた世話人の存在の大きさに改めて感じ入るものがある。読経の内容は録音をしてあるので機会あればお聞かせしたいと思っている。



間宮土信の箱書き銘文  
畠山 隆

旧高津村の領主・間宮土信(ことのぶ)の奉納した宝剣が、高秀霊神社の御宮守を勤められた源左衛門家に残されている。その宝剣を納めた唐櫃の蓋の裏面には土信自らが筆書きしたと思われる次の銘文がある。

「文化十一年歳次甲戌五月七日當 曩祖高秀霊神歸泉之辰歴春秋二百矣神嘗服戌死國令名聞當時餘慶及孫子高祖考勲負方好君追謚本盛院信秀日實居士實始建祠於采邑高津村而崇祀已又百年于茲矣居士又嘗造寶劍獻于武州橋樹郡川崎宿佐々木大明神祠尊太祖所尊也今倣其舊造寶劍以獻之霊神祠聊存追慕之誠云九世孫間宮庄五郎土信敬白」

高秀霊神は、徳川方として大坂夏の陣に参加し戦死した旗本間宮庄五郎家 2 代の正秀その人を神格化した神様である。

銘文には高秀霊神の二百回忌にあたり、家康を守護して戌死(じゅし・戦死)した曩祖(どうそ・先祖)正秀の威徳を称え、百年前にその正秀を祀った 6 代領主方好が、間宮氏一族の氏神佐々木(沙々貴)神社に宝剣を献上した先例に倣って、高秀霊神に奉獻する旨の理が記されている。

このことは、『八千代市の歴史』資料編・近世の「祖高山高秀霊神式百年御忌御法事御祭事記録」の中に「差上申御請書之事」「高秀霊神様御祭事、新二御神宝被遊御奉納候二付」という記事からも確かめることができる。

ところで、この銘文を書いた間宮土信は、このとき幕府の地誌編纂所調方頭取の地位にあつて『新編武蔵風土記稿』などの編纂事業に傾注していた時期であったが、その文筆力を買われたのであろう、この外にも幾つかの箱書きや碑文を残している。

東京都日野市の百草八幡神社にある古刀と鐔が納められている箱の内側に、それを奉納した由縁を記した箱書きがあり、文化13年4月の土信銘がある。

また東京都中野区蓮華寺境内にある文化12年5月銘の「山荘之碑」碑文は、土信の撰文により江戸小日向の切支丹屋敷で獄死した人たちを悼んで建てられた石碑で、わが国キリシタン史の上でも貴重なものである。現在は中野区の指定文化財として保存されている。

土信は幕府の地誌編纂事業に力を発揮し、歴史・地理学者として中央では名を成したが、高津村領主としての治績や自らの遺志で高津観音寺へ遺骸を葬ったことなど、地元であまり知られていないのは惜しい。

2005 夏の記憶  
滋賀への史料探訪旅行  
牧野光男

八月の始め、二泊三日の明大りパティ・アカデミーの「史料探訪旅行」に参加した。

初日は彦根駅集合である。ここにある滋賀大学経済学部附属史料館で近江地方の商売に関わる古文書とにらめっこをし、頭をひねりながら判読した。休憩時には学生ホールでカフェなど飲みながら彦根城を眺めつつ学生に混じって談笑した。この史料館は良質な古文書を多数所蔵している事で知られているという。

そこからバスで長浜に移動し宿所に入る。長浜は前にも泊まっているので町の記憶がよみがえり、二日目の早朝に街中を散歩する。町の中を流れる小川は少し汚れてきたようだ。

高月町に移動して井口・日吉神社文書の勉強である。神社の社務所の開け放した部屋で、一文書を数人で囲み読み下し、書き役に書き取ってもらう。書き役は交代ですが緊張するもの

だ。

ここの学習が終り、タクシーを呼び渡岸寺へ移動し十一面観音を拝観する。これは重要文化財の指定を受けているが、収蔵庫が工中なので本堂に安置してある。美しい立ち姿の観音様である。かつて織田信長が小谷城を攻め立てた時、檀家の人たちが土中に観音様を埋めて護ったというその場所に説明の立て札があった。お寺は焼き討ちにあい焼失し、その場所が示してあった。

三日目は余呉町池原・全長寺文書の勉強である。永禄年間の寄進状などで見ただけで悲鳴をあげそうなものもあるが、皆真剣そのもの。開け放した本堂で昼の弁当を開いた時は、さすがにホッと顔つきになった。

寺の奥にある達磨大師の掛軸を拝観しながら寺の説明を受けた。豊臣秀吉と柴田勝家の賤ヶ岳合戦の勇将毛受兄弟菩提所となり供養を行っているという。この小さな山里が歴史の大波を被った一場面を周囲の山々は語らず静かにそこに在った。



余呉町池原の全長寺

3時ごろ、米原駅に戻り解散となる。同志の人と西国札所を巡ることになり、近江八幡に泊まり翌日は長命寺・観音正寺・岩間寺・石山寺・三井寺などをレンタカーで巡拝し、夕方京都駅へ出て新幹線で帰る内容大盛りの四日間であった。

(2005.8.記)

## 2005 夏の記憶

馬場小室山遺跡(さいたま市)  
にかかわって

藤 由美

昨年は奥琵琶と若狭の古寺巡礼、一昨年は韓国南部の史跡巡りと、夏はもっぱら旅行を楽しむのが恒例でしたが、今年(2005年)は私にとって例年と違う夏になりました。と、いうのは、昨秋以来、さいたま市の縄文遺跡「馬場小室山遺跡」と深くかかわることになってしまっていたからです。

馬場小室山遺跡は、窪地を真ん中になだらかな塚がとりまく「環状盛土遺構」の地形がよく残っている貴重な縄文遺跡です。目に見える形で地上に残るそのまれな景観は、八千代市に隣接した井野長割遺跡でも話題となり、こちらは2005年3月に国史跡に指定されました。

印旛沼周辺の縄文遺跡に興味を持って、江原台などの発掘現場に足を運んでいた私は、井野長割遺跡と同じ「環状盛土遺構」をもつこの馬場小室山遺跡が、2004年9月末に発掘調査不十分のまま住宅地をして破壊されるという内容の公開メールに接し、早速現地に赴きました。

調査の終わった馬場小室山遺跡は累々と重なる住居址、大土坑の跡や、幾層もの堆積層の断面などが観察でき、また、調査対象外の市有地と小室神社境内に残された森が中央窪地と盛土遺構の一部と推察できます。



未発掘部分を残して調査終了した遺跡  
2004.10.2

その後、この遺跡の保存と調査の続行を呼びかけるメール発信元の考古学研究者鈴木正博氏と出会い、現地見学会や、未調査の造成工事現場に残された土器の採集をお手伝いさせていただき、さらにこの遺跡についてより詳しく知るための「馬場小室山遺跡研究会」も発足、本会からも会員6名が参加し、小室山通いが始まりました。

馬場小室山遺跡研究会は、考古学研究者と大学院生、各自治体の埋蔵文化財担当者、大学公開講座や博物館友の会、その他、地域サークルや地元から馳せ参じた市民など、誰でも参加できます。専門知識の豊富な方々の指導で考古学最前線の情報に接しながら、馬場小室山遺跡やいわゆる「環状盛土遺構」の出現過程の解明、さらに採集した土器の整理・分類も進めていくことになりました。

この研究会を進めていくうちにわかったことは、200m四方にわたって縄文中期の住居址の広がる中、直径50mの窪地の周りに5つの土塚が直径150mの環状を呈している馬場小室山遺跡の特徴的な姿であり、それは縄文後期から晩期にかけて多世代が同じところに住居や墓を作り続けた堆積によるものであるということ、他の遺跡の「環状盛土遺構」「環状(馬蹄形)貝塚」の成り立ちを解明する研究にもつながる視点でした。

また、遺跡の保存と活用について「市民による市民のための考古学」の実践でもあり、その視点からも、「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」を遺跡調査終了一年目にあたる10月1日～2日の2日間の日程で行うことになりました。

私にとっては、高津の民俗調査と併行しての参加でしたが、7月からの夏本番は、土器の整理やフォーラムの内容の深化のため、毎週末のワークショップとなり、中でも土器の水洗い・採取年月日と場所の注記作業・拓本採りの一連の土器の整理は

初めての経験でした。特に専門家が丁寧に指導くださる土器の型式別編年の世界は、私が初めて古文書の世界に接した時のような新しい世界。まだその難解さにわかったとはいえませんが、縄文中期の勝坂式から縄文晩期の安行3d式までの1530点の土器片を整理しながら、その型式の特徴や紋様の変化の過程を知ることができ、地域の歴史を把握する上で、知識だけでなく実資料に接することの大切さを実感できました。また、その大量の土器片の中に、塩作り専用の製塩土器のかけらが5点も見つかったことは、この時代のものや人の交流を考えさせてくれました。

これまでは博物館のケースの中を眺めるだけの土器や石器でしたが、今回は拓本をとりながら、土器の表面に粘土紐を貼り付け、縄を転がし、ヘラや櫛などで豊かな紋様を生み出している縄文人の手仕事の確かさを感じつつ、またその紋様の変遷を層位的にとらえ土器の編年として体系化していった考古学の先人たちの足跡を思いました。



安行2式土器の拓本採り

馬場小室山遺跡の面する古内湾見沼は、近世の治水干拓の歴史も印旛沼に似ていて、見沼の干拓成功の後、見沼の竜は印旛沼に逃げて行ったという有名な伝承が残されています。

土器型式や、環境変化に伴う人類の生活の変化、そしてそれに対応する遺構の累積による景観の特徴点など馬場小室山で培われた目で、佐山貝塚や神野貝塚など市内や近隣の遺跡を見るとき、私にとって以前とはちがった世界が広がってくることでしょう。この夏の実践を地域研究にフィードバックできればと思っています。



## 狛犬さんは何処へ 平塚 胖

わが家恒例の初詣は成田山新勝寺である。仁王門を上がると池がありその上に金ぴかの阿・吽の狛犬が子供を従えて参拝者を威嚇しているようである。今まで何度もここを通っていたのにあまり気にもとめていなかった。この狛犬は嘉永3年(1850年)の青銅製である。左の狛犬は金ぴかの角があり、右のは金ぴかの丸い饅頭みたいな物が頭に載っている。「面白いな」と思って写真に撮って帰った。

2月の節分には三山の二宮神社に行った。その狛犬は石造で普通我々が知っている狛犬である。割合大きなものだった。今までほとんど気にも止めなかった狛犬が一寸したことでやたらと気になるのである。

4月になって今年は八千代市の狛犬を調べようと思い立った。千葉県道路地図と市役所で買った500円也の白地図に神社をマークし順番に巡った。歩いていると地図にない神社、畑の中にぼつんと鳥居と小さな祠だけの神社だったり。大小全部で61ヶ所を廻った。そのうち41対の狛犬に会うことが出来た。狛犬のある神社は総じてお守りをしている人がいるようで幕の目が新しく気持ちがいい。写真を撮らせて戴くので5円硬貨のお賽銭を上げる。(ある老人から「お賽銭は10円は悪い。トーン(遠縁)と言うから」と聞いた)

この狛犬であるが元々は宮中で天皇の御座所の魔除けとしての調度品であったらしい。平安時代の古文書に「右は(向かって左)一本の角があり口を閉じた狛犬、左は角が無く口を開けた獅子」と書かれているらしい。これが阿吽一對になって「狛犬・獅子」と言っていた。調度品であった狛犬が宮中から外に出て寺院や神社の神域を護る目的で参道狛犬として置かれるようになった。ところが狛犬と獅

子が一對となって守護像なのであるが、何時の頃からか両方とも狛犬と呼ばれるようになってしまった。

その後江戸になって日光の東照宮に大名が狛犬を奉納した。八代将軍吉宗の頃より武家から庶民に拡がり神社に奉納・奉獻するようになったようである。

さて八千代の狛犬であるが一番古いものは七百所神社の鳥居の傍にあるもので天保6年(1835年)の奉納である。古い割にはこの狛犬には角がなく左右共に前足を挙げ「お手」をした獅子である。

飯綱神社には制作年代が不詳であるが相当古いと思われるものがある。本殿の傍にあり向かって左に角のある狛犬、右には饅頭を載せたような獅子が大きく口を開けている。これが一番古いのではないかと私は考えている。



飯綱神社の狛犬と獅子

昔は単純な蹲踞の姿勢の狛犬も時と共に変化し、子供を伴ったり、球を抱えたりと石工のアイデアが表現され、狛犬そのものの表情も千差万別で面白い。

神野の熊野神社の狛犬と大和田の時平神社の狛犬は明治の終わりから大正の初めにケミ川小川忠三と言う石工が彫った親子の像であるが、親子の所作のデザインが全くおなじと言うのも珍しい。また村上の根ノ上神社では獅子が子供を谷に突き落として登ってきた子供を育てるという故事に習った像を奉納しており、狛犬というより獅子と考えた像である。

最近の像は機械彫りで温かみがない。やはり石工がていねいに手で彫ったものの方がいい。せっかく彫ったにもかかわらず石工の名を刻印していない狛犬が半

数近くあり残念である。とにもかくにも今われわれが目にする狛犬はほとんど獅子なのに総じて狛犬と呼んでいる。本当の狛犬さんは何処へ行ったのかと・・・。「コマイヌサン ア コマイヌサン ウン」。

## ご案内

### 12月4日(日) 廿五里(つうへいじ)南貝塚 学習会&遺跡めぐり

- ・10:00~15:30
- ・学習会場所: 千葉市生涯学習センター大研修室(3階)
- ・講師: 鈴木正博氏
- ・主催: 千葉市の遺跡を歩く会
- ・連絡先: [chibaiseki@yahoo.co.jp](mailto:chibaiseki@yahoo.co.jp)

### 12月18日(日) 千葉県郷土研研究発表大会

- ・9:50~15:40
- ・市立郷土博物館にて
- ・記念講演 14:00~15:30  
鶴巻孝雄氏  
「報じられた房総を読む - 新聞記事を手がかりに文明開化を考える」
- ・発表  
藤本涼輔「二十四孝について」  
牧野光男「八千代市観音寺所在の韓式鐘楼について」  
松本松志「朝鮮通信使と関宿藩について」  
植野英夫「下総国印西庄龍腹寺宝塔棟札について」
- ・参加費 1,500円(昼食弁当・資料代)

#### -----編集後記-----

記事が多すぎても、少なくてもスペースが空いても編集者は悩むもの。今回は、2ページ半段が空いて困っていたところ、会長からコラム記事をいただき、ジャストフィット!

そういえば、飯綱神社の狛犬さん、お髭が執筆者にそっくりですね。

皆様のご協力に感謝します。

By. 藤 [QWR07752@nifty.ne.jp](mailto:QWR07752@nifty.ne.jp)